

1年次の国語の授業風景 — 詩の主題を考える —

◆今号の記事は、尾見教頭先生が書いてくれました。

5月16日の6校時に佐藤麻美先生のアクティブ・ラーニング授業実践が行われました。1年次の国語で『風の五線譜』（高階杞一）と『名づけられた葉』（新川和江）の2つの詩を題材にして「詩の主題を考える」授業でした。

とても短く感じられた55分は、佐藤先生が「ワールドカフェ」の手法を取り込んだ授業の流れを提示するところから始まりました。学習の見直しを確認し、グッドモデルを示したころには、すべての生徒の眼がキラキラと輝き始めていました。

第1ラウンド。「それぞれの詩の主題は何か」というテーマが与えられ、あるグループはボードに書き始め、あるグループはどんどん考えを出し合うなど様々な活動がスタートしました。**第2ラウンド**。メンバーを変えて、「それぞれの詩の主題」をもう一度話し合いました。違うグループの意見を知り、生徒たちの表情が変化していました。佐藤先生は第1ラウンドよりも踏み込んで、各グループに声をかけていました。それは深まりをもたせる質問であったり、生徒の声を整理する言葉であったり、グループごとに様々でした。**第3ラウンド**。元のグループに戻り「2つの詩の主題の違いは何か」に話合いのテーマを変えました。この変化により、話合いが**焦点化**され、生徒たちの意見交換は、第2ラウンドを受けてさらに活発になりました。

まとめでは、佐藤先生はグッドモデルを示し、グループからの発表の質の向上を狙いました。生徒たちは**原稿なし**で、「2つの詩の主題の違い」を、フリップに書いたキーワードを見せて発表しました。発表の**内容が深い**ことに驚かされました。そして、**すべての発表が、「自分の言葉」になっていました**。

今回のアクティブ・ラーニング授業実践では、ユニバーサルデザインを基盤とする手法や、生徒の学習活動を活性化するグループ活動への言葉かけなど、佐藤先生の底力を感じる授業を参観することができました。**AL指数**は「**AL90**」でした。

